

- 誘客を効果的に実現するべく、博物館への「継続的な来訪サイクル」の形成を目指す。
- 具体的には、①博物館外等で来訪の誘因を創り出し、②博物館においてアイヌ文化の歴史や魅力への気付きを与え、③リピート訪問や、より深くアイヌを知りたい動機付けを実現する。

「継続的な来訪サイクル」の実現

① 博物館外等での来訪の誘因創出の例

■ 道外からの誘因

・アイヌ資料を保管する博物館と連携し、首都圏博物館で展覧会を開催。

■ 修学旅行を誘因するための教員へのインプット(博物館の日(7/31))

・教員を優先的に招待し、教育旅行誘致につなげる。



■ 海外からの誘因

・米スミソニアン自然史博物館の企画展「Lights Out!」ヘイラストや音源を提供。アイヌを紹介するコンテンツを公開(2023年3月～2025年12月)。

② 博物館における歴史や魅力への気付きの例

■ ファミリー層へのインプット

・絵本「おばけのマール」を題材に、家族で体感型でアイヌ文化に親しめる展示を予定。



アイヌ民族の伝承動画の一場面



おばけのマールと
すてきなこぼ

■ インバウンド層への訴求

・英語に加えて、中国語・韓国語を主とした展示構成を試行。
主要な外国人観光客に向けてアイヌ文化に触れやすい機会設定。

より深くアイヌを知りたい動機付けに向けて

■ 特別展示 アイヌ文学の近代(6月24日～8月20日)

- ・1920～30年代当時のアイヌの生活の実態を歌として詠んだ、アイヌ三大歌人(バチラー八重子、違星北斗、森竹竹市)にフォーカス。
- ・詩歌31文字のリズムに、アイヌの言葉を散りばめられることで生まれる独自の美しさを見どころとして展示。
- ・佐佐木信綱も注目していた、こうした歌人の独自の世界観を見せることで、個性的で深い取組を紹介。
- ・なお、詩歌の取組を行っている団体もターゲットに、積極的な誘客広報を実施。



バチラー八重子



違星北斗



森竹竹市